

1. 実況上の着目点

- ① 華南からのびた前線が、九州南部を通過して日本の南へのびている。前線に向かって850hPa 相当温位345K以上の下層暖湿気が流入しており、前線の近傍や前線の南側では活発な対流雲を含む雲域があり、局地的に激しい雨を解析し、発雷を検知。
- ② 日本の東には高気圧があって、東～西日本は広く覆われていて、晴れている所が多いが、高気圧後面からの下層暖湿気の影響で東日本を中心に曇っている所や弱い雨が降っている所がある。



主要じょう乱解説図

- ③ 500hPa 5760m付近で-9°C以下の寒気を伴うトラフが中国東北区から華北にあり、東南東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、18日にかけて日本の南をゆっくりと北上して東日本太平洋岸にのびる。1項②の日本の東の高気圧は、次第に日本から遠ざかり、18日夜には日本のはるか東に移動する。また、1項③の中国東北区から華北のトラフが18日にかけて日本海から東日本へ進む。トラフに対応して18日夜には、関東の東で前線上に低気圧が顕在化して19日にかけて発達しながら東北東進。前線に向かう下層暖湿気の流れ込みにより大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。特に、九州南部と南西諸島では17日は、1項①の活発な対流雲を含む雲域の流れ込みにより大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。特に、九州南部と南西諸島では17日は、土砂災害に嚴重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、東日本では土砂災害に注意・警戒。東～西日本、南西諸島では18日にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 2項①の前線の周囲では強い風が吹き、波が高くなる所がある。南西諸島では17日は、西日本太平洋側では18日にかけて、東日本太平洋側では18日は、強風や高波に注意。
- ③ 2項①の日本海から東日本へ進む寒気を伴うトラフの影響で、大気の状態が不安定となる。北日本では18日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。本州南岸の前線や低気圧の位置には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：九州南部・奄美150mm。
- ② 波浪(明日まで)：伊豆諸島・近畿3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。